

2011年4月

第48号

発行所
高野山大学図書館
閲覧室



それゆけ！ としよかんだより

古典籍逍遙

【第十四回】

図書館長

武内孝善

『高野山秘記』一冊

【書誌データ】

袋綴装、一冊、室町時代・永享二年(1430)写、たて 27.4センチ、よこ 19.6センチ、無界、朱墨の訓点あり、楮紙、表紙とも 34紙、後補表紙、虫損あり。

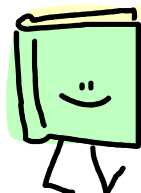
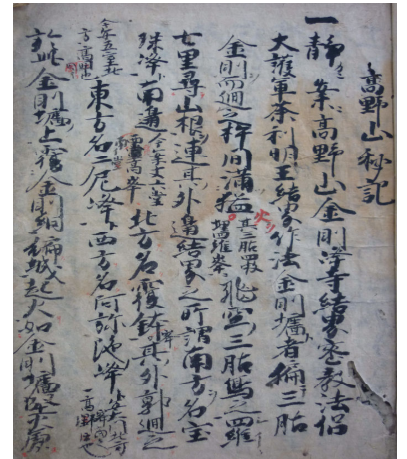
本書は、中世高野山縁起と称される史料群のひとつで、39項目(一説に36項目)からなるもっとも広汎なものです。本文は、真福寺善本叢刊9の『中世高野山縁起集』に紹介されている真福寺本(康永四年<1345>書写)と同じ内容を有し、書写年代も永享二年(1430)と室町時代にさかのぼることから、本書は『高野山秘記』を研究する上で無視できない貴重な写本といえます。

本書の成立年代は明確にはしませんが、切紙で伝えられていたものを、道範(1178~1252)の周辺で集成されたものとみなしておきます。その根拠は、①奥書に「此れ本書に云はく。此の本、尊信房明澄尋ね出す本なり。」とあり、②「明算感得書云」の項に「相承明算、教真(中略)実覚、源照、覚海、道範、明澄」とあることです。これらより、源照—覚海—道範—明澄と相伝されたことが知られます。

『金剛峯寺諸院家析負輯』によると、源照は龍光院の第二十一世と記されるけれども、その生没は不明です。華王院に住んでいた覚海(1142~1223)は、その門下から高野四哲といわれる四人の学僧—法性・道範・尚祚・真辨—が排出するなど、南山教学の基礎をきずいた学僧として著名です。正智院の住持であった道範は、執行代であった仁治4年(1243)9月大伝法院のことに連座して讃岐に配流されるなどしましたが、鎌倉時代の高野山を代表する学僧のひとりでした。明澄は、建長2年(1250)11月17日、正智院において道範から両部の灌頂を受け、弘長元年(1261)11月から弘安4年(1281)6月にかけて賢誓ら8名に灌頂をさずけています。上記の①②のほか、③「弘法大師御閉眼の後」の項に「正智院御口決云はく。嘉禎四年正月廿一日阿闍梨道範之を記す云々」とあり、④「源照円定房耳語云」の項に「此等の次第相承に云く。真然、明算(中略)実覚、源照、明澄なり云々」とあることなどを勘案しますと、道範が一度まとめたものに、付法の弟子・明澄が手をくわえ集成したものが本書である、といえそうです。

本書の内容は、大きく分けて二つあり、一つは高野山、あと一つは弘法大師に関する秘説・口決の類を集成したものです。いま少し説明を加えますと、前者に関しては、高野山の地形や境界を金胎のマンダラにたとえるなど密教的・象徴的に解釈するもの、および大塔・金堂・御影堂などの壇場伽藍と奥院についての秘説を、後者に関しては、大師はかつてインド霊鷲山に行きお釈迦様の説法をお聞きになったといったご生涯に関する秘説、およびご入定後の口決類を集成しています。

平安時代の11世紀以降さかんに喧伝されます、高野山は大師が生身をとどめておられる入定留身の地であるとの説、並びに高野山の浄土説を考える上での根本史料の一つですので、ぜひ手にとってみてください。



『古典籍逍遙』は今回が最終回です。
武内先生ありがとうございました！

早いもので、平成十九年四月に図書館長に就任してから四年の歳月が過ぎ去ろうとしている。当初、四人いた図書館員は、いまは二人となってしまった。実にさびしい限りだ。感傷に浸っている場合ではない。この四年間を総括しておきたい。

館長に就任したとき、私の頭にあったのは、二つのことであった。一つは、本学図書館には史料的に価値の高い典籍がたくさんあるにもかかわらず、あまり知られていない。そこで、それらのすばらしい典籍の影印に解説を付して刊行したい、多くの人たちに知っていただきたい、と考えた。いま一つは、昭和三十年代から購入されてきた古典籍・版本・古文書の類が未整理のまま放置されており、しかも、この中には史料的に極めて貴重な平安時代の古写本が含まれていることを知った。そこで、館長在任中に何としても整理し、大学関係者・利用者の共有財産として公開したい、と考えるにいたった。前者については、その手始めとして、「高野山大学図書館善本集成」第一期として、『大毘盧遮那経義記』等四つの典籍を刊行することが承認され、現在、鋭意編纂作業をおこなっており、もう少しく皆様にみていただくことができるところまで来ている。一方、後者はこの三月に、全四百三十八部を十八の部門にわかって整理し、七百三十頁をこえる基礎目録を完成させることができた。よって、あと少し手を加えると、皆様に手にとっていただけるであろうと考える。このように、二つともあと一歩のところまで来ているので、楽しみに待っていていただきたい。

また、館員の方たちからは、「開かれた図書館」を目指して三つの提案が出された。第一は、図書館のPR誌として毎月「それゆけ！としょかんだより」を刊行したい。第二は、閲覧室を利用した「ミニコンサート」を開きたい。第三は、図書周辺について知っていただく「図書館文化講座」を開催したい。固定化された図書館のイメージを払拭し、図書館の可能性を追求する上からも、すばらしい提案であると考え、ゴーサインを出した。館員諸氏の涙ぐましい努力の甲斐あって、三年目あたりから、「ミニコンサート」「図書館文化講座」は在学生、OB・OGの方から積極的に唄いたい、演奏したい、お話ししたい、との希望がよせられ、盛況を呈するようになった。「それゆけ！としょかんだより」も、お陰さまで本号をもって48号を数える。まことに喜ばしいことであり、正直うれしい限りである。今後も、このまま活況を呈して行っていただきたいと念願する次第である。

あと四つ、忘れてならないことがある。第一は、平成十九年夏、図書館書庫の大掛かりな耐震工事をおこなったことである。これに伴い、寄託されている貴重な古典籍をすべて一階に移した。このとき、宮田永明学監の英断により床下を補強していただいた。第二は、同二十一年八月、山内龍光院様から百六十六箱の聖教類を寄託していただいたことである。現在、目録作りを鋭意進めており、一日も早い完成を願ってやまない。第三は、同年五月、甲田宥咩師のご尽力により、宝塚市の満願寺様からご寄贈いただいた五十四箱におよぶ聖教の目録が完成したことである。第四は、同二十三年二～三月、開館以来はじめて蔵書の総点検を実施したことである。

最後に、この四年間、曲がりなりにも館長の職を務めることができたのは、何よりも、館員諸氏のご助力の賜物であり、心より感謝申し上げたい。四年前の本誌創刊号で書いたフレーズを再録して筆を擱くことにしたい。これからも「世界遺産の地で、世界に誇れる図書館の構築を目指してほしい」と。

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
27	28	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

	9:00-18:00		13:00-18:00
	13:00-18:30		9:30-16:30
	9:00-18:30		閉館

切り取り

図書館通信

4月4日(月)より送本貸出サービスを再開いたしました。

(編集後記)

蔵書点検の為、2・3月と閉館し皆様にご迷惑をおかけいたしました。4月7日(木)より開館いたします！どうぞご利用下さい！ (石原)

発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡高野町高野山385

高野山大学図書館 閲覧室

Tel:0736-56-3835

Fax:0736-56-5590

E-mail service-lib@koyasan-u.ac.jp